

第2章 弘前市町会における問題の所在

2.1 はじめに

本章では町会とその活動全般について、町会を活動と会長の二つの資源＝リソースの総体とみなし、町会を活性化させるためのインプット→リソースの要因を探ることにする。具体的には、既存の青森市、秋田市、山形市、仙台市、福島市、盛岡市の6つの町会・町会調査の再分析を行い、4つのセグメントを示した松本・吉原（2009）、松本（2010）、松本（2011）と同様な操作を弘前市調査にも行う。

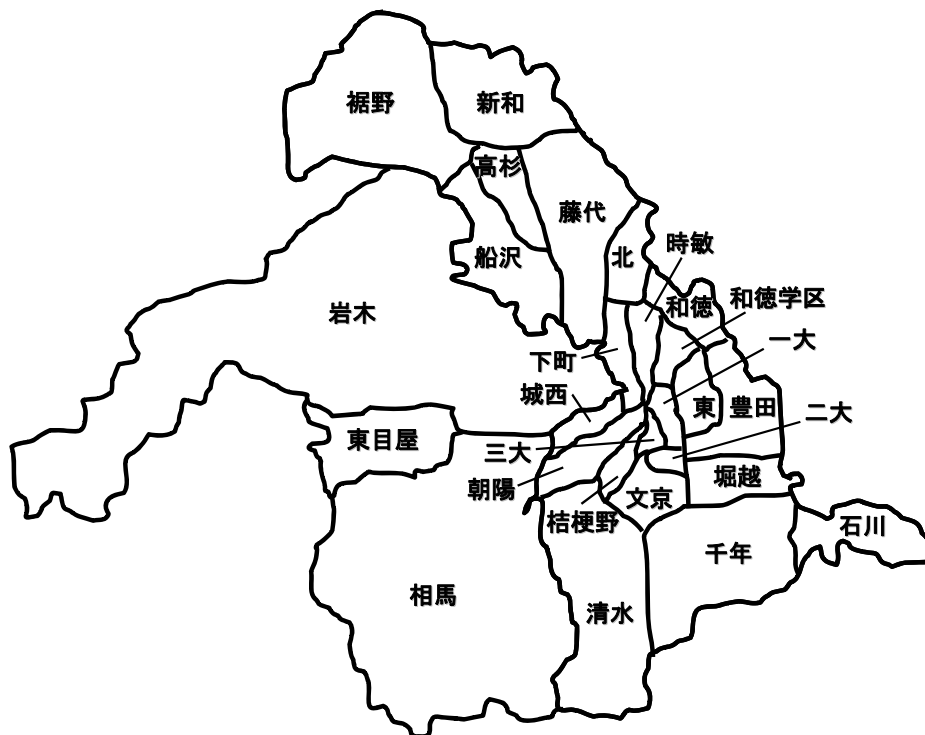


図 2-1 弘前市各地区(弘前市提供資料等より筆者作成。地区境界が正確でない部分もある)

ちなみに本調査により弘前市内 26 地区 335 町会を対象にアンケート調査を実施し、214 町会の有効回答が得られている。因みに地区についての概要は図 2-1 のようになる。

地区別の回答構成比であるが、朝陽 3.3%、一大 2.8%、二大 2.8%、三大 2.8%、和徳学区 6.5%、時敏 7.5%、北 2.8%、下町 5.1%、城西 2.3%、桔梗野 3.7%、文京 5.1%、東 4.7%、和徳 2.3%、清水 4.7%、豊田 5.1%、堀越 0.9%、千年 3.3%、藤代 8.9%、東目屋 2.8%、船沢 3.7%、高杉 1.4%、裾野 1.9%、新和 1.4%、石川 0.9%、岩木 6.5%、相馬 4.2%、不明 0.9% であった。

2.2 町会をリソースで捉える

以下で論じる町会をリソースで捉える考え方と変数の操作方法について、松本・吉原(2009)を用いて説明する(これらの記述は松本(2011)と同じである)。

		活動個数			活動個数× 組織・団体個数			
		多	中	少	多	中	少	
組織・ 団体 個数	多	1	3	6	1	3	6	
	中	2	5	8	2	5	8	
	少	4	7	9	4	7	9	
加入 世帯 数	多	1	3	6	1	3	6	
	中	2	5	8	2	5	8	
	少	4	7	9	4	7	9	

図 2-2-1 セグメントの考え方

まず、町会の「活動個数」と「組織・団体個数」を「多」「中」「少」の3つに分けて、図 2-2-1 の左側にある9つのセグメントをつくる。それを「活動個数×組織・団体個数」の合成変数とみなし、「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」として、この変数と「加入世帯数」によるマトリックスを作成する(図 2-2-1 の右側)。この「活動個数×組織・団体個数」×「加入世帯数」における「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」にして、以下の3つの活動リソース・セグメントとする。本章の分析であるが、まず全体の数値を捉え、次に各セグメントの特徴を確認していく。その際の基準であるが、▲▼：1%有意、△▽：5%有意、↑↓：10%有意、∴∴：20%有意において全体との差があるとして解釈する。

(1) 町会活動リソース

まずは活動リソース分布から確認する。弘前市の活動リソースは、多：23.4%、中：31.8%、少：42.1%、不明：2.8%である。

次にリソース別でみた町会発足時期であるが(表 2-2-1)、全体では1940年代以前に発足した町会が多い(43.5%)。リソース別で特徴をみると、「中」で「60年代」(19.1%)、「少」は「2000年代以降」(6.7%)が多かった。

表 2-2-1 町会の発足した時期

	調査数	町会発足時期							わからない
		1940年代 以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	
合計	214	43.5	11.7	9.3	7.5	5.6	6.1	2.8	13.6
多	50	40.0	14.0	10.0	12.0	6.0	4.0	-	14.0
中	68	45.6	14.7	▲ 19.1	4.4	2.9	4.4	-	8.8
少	90	45.6	8.9	▽ 2.2	7.8	6.7	7.8	△ 6.7	14.4

それでは現在、町会はどのような目的があるのだろうか（表 2-2-2）。「住民同士の親睦」（90.2%）が一番多く、次いで「生活上の問題を共同解決」（76.6%）であり、弘前市における町会の位置づけは、他市と同様に住民同士の交流を通じて問題解決を図る場とみなされている。リソース別でみると、「多」の町会で特徴的なのは「住民同士の親睦」（96.0%）、「行政等との連絡・調整」（84.0%）であり、「中」は「行政等への働きかけ・陳情」（66.2%）となり、他市と比べると行政との関わりを求めている。また1項目を除いて、活動リソースが多い町会ほど目的としている項目も多くなる傾向にあり、活動格差の存在がうかがえる。

表 2-2-2 町会の主な目的

	調査数	現在の主な目的							その他	何もしない
		住民同士の親睦をはかるため	町内の生活上の問題を共同解決するため	行政等との連絡・調整のため	行政等への働きかけ・陳情のため	共有地、共有施設の管理のため	マンションや団地の管理組合として			
合計	214	90.2	76.6	70.1	55.1	29.4	0.9	1.4	1.9	
多	50	∴ 96.0	84.0	△ 84.0	52.0	34.0	-	∴ 4.0	-	
中	68	92.6	80.9	73.5	↑ 66.2	30.9	-	-	1.5	
少	90	86.7	72.2	∴ 62.2	51.1	27.8	2.2	1.1	1.1	

弘前市の町会への世帯加入率について確認する（表 2-2-3）。「全戸加入」は34.1%であり、3割程度である。加入率の全体平均（注：回答者ベースで集計）は90.5%である。

リソース別で、「多」に特に多いのは「70～90%未満」（34.0%）であり、むしろ「全戸加入」（22.0%）は全体平均よりも小さい。一方で「少」は「全戸加入」（43.3%）が一番多く、全戸加入町会で活動リソースが少ない傾向にあるのは他市と同様である。「中」のボリュームゾーンが「90%以上」（51.5%）であることを考慮すると、加入への強制力が大きくなるにつれて、町会活動への意欲が低下することを示している。

表 2-2-3 町会の世帯加入率

	調査数	町会への世帯加入率							世帯加入率	
		全戸加入	90%以上加入	70%以上～90%未満加入	50%以上～70%未満加入	30%以上～50%未満加入	30%未満	わからない	調査数	平均
合計	214	34.1	37.4	18.2	6.5	1.4	0.5	1.9	210	90.45
多	50	↓ 22.0	36.0	▲ 34.0	6.0	2.0	-	-	50	∴ 87.80
中	68	32.4	△ 51.5	↓ 10.3	5.9	-	-	-	68	∴ 93.01
少	90	↑ 43.3	∴ 30.0	15.6	6.7	2.2	1.1	1.1	89	90.34

町会を構成する建物・土地をみると（表 2-2-4）、全体で一番多いのは「一戸建て」（77.1%）、次いで「集合住宅（家族向け）」（20.6%）である。リソース別の特徴は、「多」が「一戸建て」（86.0%）、また「中」も「一戸建て」（83.8%）であり、一方の「少」では「事業所」（10.0%）であった。

表 2-2-4 町会における建物・土地の特色

	調査数	建物・土地の特色							
		一戸建て	集合住宅 (家族向け)	田畑	商店	集合住宅 (単身向け)	事業所	工場	その他
合計	214	77.1	20.6	19.6	9.3	7.0	6.5	0.9	4.7
多	50	∴ 86.0	26.0	16.0	10.0	8.0	4.0	-	-
中	68	∴ 83.8	17.6	∴ 26.5	5.9	5.9	2.9	1.5	4.4
少	90	↓ 68.9	17.8	17.8	12.2	4.4	∴ 10.0	-	6.7

表 2-2-5 町会における人口変化

	調査数	最近10年間くらいの人口の変化				
		大いに増加	やや増加	あまり変化はない	やや減少	大いに減少
合計	214	0.9	11.2	28.0	47.7	9.8
多	50	-	10.0	30.0	46.0	12.0
中	68	-	8.8	32.4	51.5	7.4
少	90	1.1	14.4	25.6	45.6	11.1

は町会活動の活性化につながらないことを意味しているのだろうか。

表 2-2-6 町会における新旧住民の割合

	調査数	新旧住民の世帯数の割合				
		古くからの地付きの世帯がほとんど	古くからの地付きの世帯のほうが多い	同じくらい	外からの新しい世帯のほうが多い	外からの新しい世帯がほとんど
合計	214	35.0	34.6	4.7	11.7	12.1
多	50	↓ 22.0	42.0	6.0	∴ 18.0	12.0
中	68	41.2	36.8	1.5	13.2	7.4
少	90	40.0	30.0	5.6	7.8	14.4

市も「古くからの地付き世帯」が多い町会よりも、「外からの新しい世帯」が多い町会は活動リソースが「多」である。構成員にある程度の流動性はあった方が、町会の活動が活発になることを意味している。

町会運営上の困りごとをみると（表 2-2-7）、他の市とほぼ同様に「役員のなり手不足」（73.4%）、「行事への住民の参加が少ない」（63.6%）、「会員の高齢化」（56.1%）の三項目が高い。リソース別における特徴をみると、「多」は「会員の高齢化」（66.0%）、「加入世帯の構成が把握出来ない」（32.0%）、「町会のルールを守らない住民の存在」（33.0%）、「未加入世帯の増加」（28.0%）、「世代間のズレ」（16.0%）が多い。他の市と比べて、「中」や「少」では運営上の困りごととして特徴のあるものはなく、弘前市では活動が活発な町会ほど、問題が顕在化する傾向にあるのだろうか。

町会内の人口変化をみると（表 2-2-5）、「大いに+やや増加」は 12.1%と 1 割程度である。リソース別では全体との有意な差が確認できないが、相対的にみると「多」や「中」の町会で減少傾向にある一方で、「少」では増加傾向にある。これは他市とは異なり、新たな構成員の流入

新旧住民の割合については（表 2-2-6）、弘前市全体では「古くからの地付き世帯がほとんど+古くからの地付きの世帯のほうが多い」（69.6%）であり、リソース「多」では「外からの新しい世帯のほうが多い」（18.0%）と多い一方で、「古くからの地付き世帯がほとんど（22.0%）」が全体よりも少ない。このことから弘前

表2-2-7 町会における運営上の困りごと

	調査数	町会の運営上困っていること							
		町会の役員のなり手不足	町会行事への住民の参加の少なさ	会員の高齢化	集会施設がない／狭い／不便	町会のルールを守らない住民の存在	加入世帯の家族構成が把握できない	予算の不足	日中、留守の世帯が多い
合計	214	73.4	63.6	56.1	21.5	21.0	20.6	19.6	17.3
多	50	80.0	72.0	∴ 66.0	16.0	∴ 30.0	△ 32.0	18.0	18.0
中	68	67.6	64.7	58.8	17.6	17.6	19.1	17.6	20.6
少	90	72.2	58.9	∴ 47.8	26.7	20.0	∴ 14.4	22.2	14.4

	調査数	町会の運営上困っていること							
		未加入世帯の増加	行政との関係(依頼の多さ等)	他の町会との交流が少ない	行政以外の団体との関係(負担金等)	世代間のズレ	まとめ役がない、力不足	運営のための経験や智慧が足りない	構成世帯数の少なさによる障害
合計	214	16.8	13.1	11.2	10.7	8.9	7.9	6.1	5.6
多	50	△ 28.0	10.0	8.0	8.0	↑ 16.0	12.0	2.0	8.0
中	68	16.2	14.7	8.8	14.7	10.3	4.4	5.9	4.4
少	90	↓ 10.0	11.1	13.3	7.8	↓ 3.3	7.8	7.8	4.4

	調査数	町会の運営上困っていること							
		住民間の摩擦	単身世帯数の多さによる障害	伝えるべき情報が伝わっていない	役員内のあつれき	政治や選挙の相談・依頼事	どんな情報を伝えればよいかかわからない	その他	困っていることはない
合計	214	3.7	3.3	3.3	1.4	0.5	0.5	5.6	3.3
多	50	4.0	4.0	6.0	2.0	-	-	6.0	2.0
中	68	5.9	1.5	1.5	1.5	1.5	-	△ 11.8	5.9
少	90	2.2	3.3	2.2	1.1	-	1.1	↓ 1.1	2.2

次に町会の活動内容について確認する(表2-2-8)。この変数は活動リソースに組み込まれているため、リソースの多寡による差をみることにする。

表2-2-8 町会活動内容

	調査数	町会で実施している活動							
		街灯等の設備管理	ごみ処理収集協力	地域の清掃美化	集会所等の施設管理	雪かたづけ	公園・広場の管理	資源・廃品回収	青少年教育・育成
合計	214	88.8	78.0	73.4	51.9	51.4	50.0	40.2	32.2
多	50	94.0	84.0	▲ 94.0	▲ 72.0	▲ 74.0	▲ 74.0	↑ 52.0	▲ 50.0
中	68	86.8	79.4	70.6	54.4	52.9	52.9	35.3	38.2
少	90	87.8	∴ 72.2	↓ 64.4	▽ 41.1	▽ 38.9	▼ 34.4	36.7	▼ 17.8
差(多-少)		6.2	11.8	29.6	30.9	35.1	39.6	15.3	32.2

	調査数	町会で実施している活動							
		高齢者福祉	私道の管理	交通安全対策	学童保育の支援	防犯パトロール	防火パトロール	乳幼児保育の支援	バザー
合計	214	30.4	27.6	20.1	20.1	18.7	14.0	9.8	3.7
多	50	▲ 60.0	▲ 44.0	▲ 40.0	∴ 28.0	▲ 38.0	▲ 32.0	↑ 18.0	6.0
中	68	27.9	27.9	20.6	∴ 26.5	19.1	17.6	↑ 16.2	1.5
少	90	▼ 16.7	∴ 20.0	▼ 8.9	▽ 11.1	▼ 7.8	▼ 2.2	▼ 1.1	4.4
差(多-少)		43.3	24.0	31.1	16.9	30.2	29.8	16.9	1.6

弘前市の町会で実施している活動に多いのは、「街灯等の設備管理」(88.8%)、「ごみ処理

収集協力」(78.0%)「地域の清掃美化」(73.4%)といずれも7割以上であり、これらの項目が上位なのは、いわき市、福島市や盛岡市等の他市の調査結果と同様な傾向である。

リソースによる差が大きいものをみると、「高齢者福祉」(43.3pt)、「公園・広場の管理」(39.6pt)、「雪かたづけ」(35.1pt)、「青少年教育・育成」(32.2pt)等であり、福祉と青少年教育といったソフトの面と、公園管理や除雪等というハードの面、それぞれにおいて活動リソースによる活動格差がみられた。

町会で実施している行事をみると(表2-2-9)、「町会の総会」が96.7%と一番多く、大きく離れて「新年会・忘年会」(33.6%)や「ラジオ体操」(30.8%)となり、他は3割にも満たない実施率である。

リソース別では「多」と「少」の落差が顕著であるが、特に大きいのは「新年会・忘年会」(33.8pt)、「ラジオ体操」(33.1pt)、「盆踊り・夏祭り」(30.0pt)等の季節性のあるイベントである。

表2-2-9 町会の実施行事

	調査数	町会で組織的に実施している行事							
		町会の総会	新年会・忘年会	ラジオ体操	食事会・飲み会	神社祭礼	盆踊り・夏祭り	研修会・講習会	冠婚葬祭
合計	214	96.7	33.6	30.8	25.2	24.3	22.9	18.7	10.7
多	50	∴ 100.0	▲ 56.0	▲ 52.0	18.0	22.0	▲ 40.0	▲ 36.0	8.0
中	68	97.1	32.4	30.9	26.5	27.9	27.9	19.1	13.2
少	90	94.4	▽ 22.2	▽ 18.9	28.9	24.4	▼ 10.0	▽ 8.9	10.0
差(多-少)		5.6	33.8	33.1	-10.9	-2.4	30.0	27.1	-2.0

	調査数	町会で組織的に実施している行事							
		運動会	宿泊旅行	ねぶた制作・運行	運動会以外の体育活動	花見	成人式	映画上映・演劇鑑賞	その他
合計	214	10.7	9.3	7.0	5.6	3.7	0.9	0.9	9.3
多	50	△ 22.0	14.0	△ 16.0	▲ 18.0	2.0	2.0	2.0	∴ 16.0
中	68	11.8	13.2	5.9	∴ 1.5	5.9	1.5	-	8.8
少	90	↓ 4.4	∴ 4.4	∴ 3.3	∴ 2.2	2.2	-	1.1	6.7
差(多-少)		17.6	9.6	12.7	15.8	-0.2	2.0	0.9	9.3

表2-2-10 町会予算

	収入(総額)		支出(総額)	
	調査数	千円	調査数	千円
合計	166	1857.65	163	1802.98
多	38	▲ 2765.74	37	▲ 2662.08
中	56	1900.63	55	1887.24
少	69	▼ 1295.52	68	▼ 1279.25

町会の予算をみていくと(表2-2-10)、回答者ベースでは年間収入は186万円、支出は180万円である。リソース別では、他市の調査においてリソースの多寡と予算規模に相関があるように、弘前市でも同様の傾向(収入では多:277万円、中:190万円、少:130万円、支出では多:266万円、中:189万円、少:128万円)が確認できる。

町会でどんな組織が構成されているのだろうか。表2-2-11によれば、一番多いのは「子供会育成会」(30.4%)であり、次いで「老人クラブ」(25.2%)、「婦人会」(21.5%)である。他に「老人クラブ」(50.4pt)、「民生・児童委員会」(34.7pt)、「消防団(分団)」(22.7pt)

等についても、リソースが多いところほど構成されており、組織構成率がリソースの多寡に依存するのは他の市と同様である。

表2-2-11 町会構成組織

	調査数	町会で構成されている組織・団体								
		子供会育 成会	老人クラ ブ	婦人会	民生・児 童委員会	消防団 (分団)	氏子会・ 檀家組織	青年団	ねぶた団 体	体育協会
合計	214	30.4	25.2	21.5	17.3	14.5	14.0	5.1	4.2	2.8
多	50	↑ 42.0	▲ 56.0	∴ 30.0	▲ 38.0	△ 26.0	∴ 22.0	∴ 10.0	∴ 8.0	4.0
中	68	∴ 38.2	26.5	25.0	20.6	↑ 22.1	19.1	∴ 8.8	4.4	∴ 5.9
少	90	▼ 16.7	▼ 5.6	▽ 12.2	▼ 3.3	▼ 3.3	▽ 5.6	-	2.2	-
差(多-少)		25.3	50.4	17.8	34.7	22.7	16.4	10.0	5.8	4.0

	調査数	町会で構成されている組織・団体							
		防犯協会	少年輔導 委員会	社会福祉 協議会	農協・漁 業	商工会・ 商店会	生協	講	その他
合計	214	2.8	2.3	1.9	1.4	-	-	-	0.9
多	50	∴ 6.0	↑ 6.0	△ 6.0	-	-	-	-	2.0
中	68	4.4	1.5	1.5	△ 4.4	-	-	-	1.5
少	90	-	1.1	-	-	-	-	-	-
差(多-少)		6.0	4.9	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0

次に町会独自の情報発信についてみると(表2-2-12)、「国や自治体が発行する広報誌の内容」(90.2%)、「役員会等に関する情報」(86.4%)、「防犯に関する情報」(67.3%)が6割以上となっている。リソースが多いところほど様々な情報を発信しており、「多」では「防犯」(76.0%)、「冠婚葬祭」(60.0%)、「まちづくり全般」(42.0%)に関する情報発信を積極的に行っており、いわき市と同様に情報発信がリソース形成に影響を与えていることがわかる。

表2-2-12 町会情報発信状況

	調査数	町会でどんな情報を加入者に伝えているか							
		国や自治 体が発行 する広報 誌の内容	役員会、 例会、総 会に関する 情報	防犯に関 する情報	婦人会、 老人会な どに関する 情報	防災に関 する情報	冠婚葬祭 に関する 情報	まちづくり 全般に関 する情報	セールな どの近隣 の買い物 情報
合計	214	90.2	86.4	67.3	53.3	52.3	47.2	33.2	3.7
多	50	88.0	86.0	∴ 76.0	60.0	60.0	↑ 60.0	∴ 42.0	4.0
中	68	86.8	88.2	63.2	55.9	45.6	45.6	38.2	1.5
少	90	∴ 94.4	85.6	65.6	47.8	53.3	41.1	▽ 23.3	5.6

表2-2-13 市からの広報配布・依頼業務

	調査数	自治体等の広報配布や依頼業務の対処			
		当然のこ ととして積 極的に協 力してい る	果たすべ き義務と して協力 している	最低限の ことのみ 協力して いる	原則と して協力 していな い
合計	193	48.2	37.3	9.3	-
多	44	↑ 61.4	34.1	∴ 2.3	-
中	59	52.5	30.5	10.2	-
少	85	∴ 41.2	42.4	12.9	-

市からの広報に関する連携への考え方をみると(表2-2-13)、「当然のこととして積極的に協力している」が約5割となっている。そして、活動リソースが多い町会ほど、「積極的に協力している」という回答が多く、情報発信における市との連携に関しては温度差があるようだ。

表 2-2-14 情報伝達や共有の評価

	調査数	現状の町会での情報伝達や共有への考え			
		十分に伝達や共有されている	伝達や共有されている	あまり伝達や共有されていない	まったく伝達や共有されていない
合計	214	25.7	57.5	13.6	-
多	50	32.0	∴ 48.0	18.0	-
中	68	27.9	58.8	8.8	-
少	90	20.0	∴ 64.4	14.4	-

情報伝達や共有に関する町会長の現状の評価はどうだろうか(表 2-2-14)。全体でみると、「十分に伝達・共有されている」(25.7%)、「伝達や共有されている」(57.5%)と8割以上が現状の伝達・共有を評価していること。また、リソース別でみると、「伝達や共有されている」で「少」が一番多く、この結果だけでは断定できないが、どのレベルの町会においてもある程度の情報伝達や共有がなされているのだろうか。

これまで町会における基礎的な活動やそれを裏付ける組織形成、予算規模などを活動リソースの視点から概観してきたが、次は「防犯」、「安全・安心まちづくり」、「防災」、「高齢者福祉」等といった視点による地域づくりへの取組状況について確認する。

表 2-2-15 防犯に向けた組織的取組

	調査数	防犯のためにどのような組織的な取り組みをしているか						
		回覧板や等による地域の防犯情報共有	防犯灯・街路灯の設置	小・中学校との情報交換	防犯パトロールの実施	声かけの実施	不審者に遭遇したときの連絡先・駆け込み先	防犯セミナー・講習会等への参加
合計	214	75.7	70.6	59.3	39.3	29.0	22.9	18.7
多	50	78.0	72.0	∴ 70.0	▲ 58.0	36.0	22.0	▲ 30.0
中	68	73.5	66.2	63.2	42.6	30.9	27.9	17.6
少	90	75.6	72.2	∴ 52.2	▼ 25.6	24.4	20.0	∴ 12.2

	調査数	防犯のためにどのような組織的な取り組みをしているか					
		公園等の見通し、見晴らしの改善	防犯マップの作成	携帯電話、メール等による地域の防犯情報共有	監視カメラの設置	その他	ひとつもない
合計	214	10.3	4.7	1.9	0.9	1.4	4.7
多	50	12.0	↑ 10.0	-	2.0	-	2.0
中	68	∴ 16.2	2.9	1.5	1.5	2.9	5.9
少	90	∴ 5.6	2.2	2.2	-	1.1	5.6

防犯の組織的な取組として多いのは(表 2-2-15)、「防犯の情報の共有」(75.7%)、「防犯灯・街路灯の設置」(70.6%)、「小中学校との情報交換」(59.3%)が4割以上の項目である。

因みに「声かけの実施」(29.0%)については、いわき市、秋田市や仙台市の結果でみられたようなリソースの多寡による実施率の差は比較的小さい(多 :

36.0%、中 : 30.9%、少 : 24.4%)。活動リソース「中」で全体と比べて多い取組は「見通し、見晴らしの改善」(16.2%)であり、他の市と同様に防犯への取組についても活動リソースの形成に大きく依存していることがわかる。

弘前市町会における安全・安心なまちづくりへの取組状況をみると(表 2-2-16)、「防犯灯・街路灯の整備」(82.7%)が圧倒的に多いことや、「防犯パトロールの強化・連携」や「防犯活動に関する情報提供」(54.2%)は5割程度であるのも、他の市と同様な傾向である。リソース別では、その多寡と取組には正の相関がほぼみられるのだが、それも他の市との結果と同じである。つまるところ、町会員の動員が鍵になるといえよう。

表 2-2-16 まちづくりに向けた組織的取組

	調査数	安全・安心なまちづくりのために取り組んでいるもの				
		防犯灯・街路灯の整備	防犯/パトロールの強化・連携	防犯活動に関する情報提供	犯罪発生状況の情報提供	防犯キャンペーンの実施
合計	214	82.7	54.2	54.2	43.0	33.6
多	50	82.0	↑ 66.0	56.0	46.0	42.0
中	68	86.8	54.4	57.4	47.1	33.8
少	90	80.0	47.8	52.2	38.9	28.9

	調査数	安全・安心なまちづくりのために取り組んでいるもの				
		防犯活動の組織化の支援	防犯のための講習会の開催	防犯活動のリーダー育成	護身の知識・技術の提供	監視カメラの設置・整備
合計	214	32.7	31.8	19.6	7.5	1.9
多	50	↑ 44.0	↑ 44.0	△ 32.0	▲ 20.0	2.0
中	68	32.4	26.5	17.6	∴ 2.9	1.5
少	90	26.7	27.8	∴ 13.3	4.4	2.2

続いて大震災に向けた組織的な取組をみてみよう(表 2-2-17)。多いのは「避難する場所を決める」(29.9%)、ついで「高齢者世帯等の状況把握」(25.2%)、「消火器等の準備を呼びかけ」(22.0%)という上位3項目がいずれも2~3割であり、地震が少ない地域であることから他の市と比べて、対策している町会が少ない。そうした理由かはこれだけでは判別できないが、弘前市町会の大震災対策について、リソースの多寡と対策の多寡さにあまり

表 2-2-17 大震災に向けた組織的取組

	調査数	大地震等が起こった場合に備えて、どんな対策をとっているか						
		近くの学校や公園等避難する場所を決めている	高齢者世帯・子どもの状況把握につとめている	消火器、等の準備を住民に呼びかけている	市や消防署が主催している防災訓練や講演に積極的に参加している	高齢者・子ども・障がい者の安全について	住民間の連絡方法等を決めている	防災に関するセミナーや講演を開く等して啓蒙活動を行なっている
合計	214	29.9	25.2	22.0	16.8	16.8	12.1	11.2
多	50	38.0	26.0	22.0	20.0	18.0	14.0	16.0
中	68	33.8	∴ 32.4	27.9	19.1	∴ 23.5	∴ 17.6	14.7
少	90	∴ 23.3	20.0	17.8	13.3	∴ 11.1	∴ 6.7	↓ 5.6

	調査数	大地震等が起こった場合に備えて、どんな対策をとっているか					
		食料品や飲料水の備蓄を住民にすすめている	ブロック塀を点検する等、倒壊を防止するよう呼びかけている	地震保険に加入するよう住民に働きかけている	外国人等の短期居住者・一時滞在者の状況把握につとめている	その他	とくに何もない
合計	214	10.7	9.3	5.1	3.7	1.4	48.6
多	50	8.0	∴ 4.0	-	-	-	44.0
中	68	∴ 16.2	∴ 14.7	∴ 8.8	∴ 7.4	1.5	42.6
少	90	7.8	7.8	4.4	2.2	2.2	∴ 55.6

関連性がない。具体的には活動リソース「中」の町会での実施が多く、例えば「高齢者世帯等の状況把握」(32.4%)、「高齢者等の安全」(23.5%)、「住民間の連絡方法」(17.6%)等の項目で有意に大きいことがわかる。他の市では「多」の町会において多様に行われている大震災対策が、弘前市町会では「中」で実施されており、これは日常的な活

動をしない代わりに、震災対策をやっておこうという「アリバイ」的な行動になっているのかもしれない。

最後に高齢者や子ども等居住世帯に関する支援状況について確認する(表 2-2-18)。全体では「除雪の手伝い」(60.7%)、「見守り等の声かけ」(45.9%)といった高齢者への対応が4割以上の項目であり、「子どもの見守り」(25.2%)は3割未満であり、市全体の傾向としては高齢者への対応が主となっているようだ。活動リソース別の特徴をみると、「多」は「除雪」(80.0%)、「見守り等の声かけ」(56.0%)、「子どもの見守り」(42.0%)、「高齢者等のいる世帯の情報交換」(24.0%)、「高齢者等のいる世帯へのボランティア活動支援」(20.0%)が全体よりも多いことがわかる。また「中」において、「日常生活の相談相手」(32.4%)、「話し相手」(29.4%)、「介護等サービスの情報交換」(19.1%)、「介護に関する相談相手」(17.6%)

等が多い。このように弘前市町会におけるこの種の支援でわかることは、活動リソース「多」町会では防犯色の強い支援が多く、「中」の町会では四方山相談といった性質が強い。

表 2-2-18 高齢者・子ども等居住世帯への支援

		高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること								
調査数		除雪の手伝い	見守り・日常的な安否確認等の声かけ	子どもの登下校時の見守り	日常生活に関する相談相手	防犯のための巡回	話し相手	高齢者等のいる世帯に関する情報交換	災害時の避難支援・安否確認	
合計	214	60.7	45.8	25.2	22.0	22.0	20.1	16.4	15.4	
多	50	▲ 80.0	∴ 56.0	▲ 42.0	24.0	∴ 30.0	22.0	∴ 24.0	10.0	
中	68	63.2	47.1	26.5	△ 32.4	25.0	↑ 29.4	22.1	17.6	
少	90	↓ 52.2	42.2	▽ 15.6	▽ 13.3	16.7	∴ 13.3	▽ 7.8	17.8	

		高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること								
調査数		介護に関する相談相手	高齢者の生き甲斐・趣味活動の組織化	介護・医療サービスに関する情報提供	ごみ出し	高齢者等のいる世帯を対象とするボランティア活動の支援	育児・子育てに関する相談相手	掃除・庭の手入れ	手紙の代筆、電話かけ	
合計	214	11.7	11.7	10.7	10.7	9.3	7.5	5.6	5.1	
多	50	14.0	∴ 18.0	12.0	8.0	▲ 20.0	8.0	4.0	2.0	
中	68	∴ 17.6	13.2	△ 19.1	↑ 17.6	11.8	∴ 11.8	△ 11.8	↑ 10.3	
少	90	∴ 6.7	7.8	↓ 4.4	7.8	▽ 2.2	4.4	∴ 2.2	3.3	

		高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること								
調査数		買い物の手伝い・代行	食事の用意	外出への同行	要介護者の介護	幼稚園・保育所への送り迎え	短時間の子守り	新聞や本の代読	その他	
合計	214	5.1	4.7	4.2	2.8	1.9	1.4	0.9	0.9	
多	50	2.0	6.0	4.0	2.0	2.0	-	-	-	
中	68	▲ 13.2	5.9	↑ 8.8	∴ 5.9	∴ 4.4	△ 4.4	1.5	↑ 2.9	
少	90	↓ 1.1	3.3	∴ 1.1	1.1	-	-	-	-	

(2) 町会会長リソース

会長リソースの作成方法は(1)と同様であり、以下にそれを示す。

		会長在任年数		
		多	中	少
世帯の地付き	古	1	3	6
	中	2	5	8
	新	4	7	9

図2-2-2 会長セグメントの考え方

ここでの操作は活動リソースのように3つの変数ではなく、「会長の在任年数」と「会長家族の地付きの程度」という2つであるために、1回のステップだけである。因みに「地付きの程度」であるが、松本・吉原(2009)と同様に、「古」「中」「新」をそれぞれ「戦前」「昭和20年代～40年代」「昭和50年代以降」としている。

こうした操作にて変数を作成して、そのリソース分布をみると、多：30.4%、中：26.2%、少：35.0%、不明：8.4%となった。

表2-2-19 会長手当で支給実績

	調査数	役員手当で(定額)		活動ごとの手当で	
		無し	有り	無し	有り
合計	214	18.7	78.5	77.1	12.1
多	65	20.0	78.5	78.5	6.2
中	56	25.0	71.4	73.2	17.9
少	75	16.0	82.7	78.7	12.0

次に会長への手当てなどの支給状況について、役員定額手当てをみると(表2-2-19)、弘前市は「手当て有り」が78.5%であり、会長リソース別での差をみると「中」が一番少ないことがわかる(多:78.5%、中:71.4%、少:82.7%)。

活動ごとの手当てについては「無し」が77.1%であり、これについては多:78.5%、中:73.2%、少:78.7%というように、リソース別での差はみられない。

表2-2-20 会長の手当て/持ち出し割合

	調査数	手当てと持ち出しの割合			
		手当ての方が多	同じぐらい	持ち出しの方が多	わからない
合計	214	17.8	19.6	31.8	13.1
多	65	15.4	26.2	33.8	9.2
中	56	17.9	16.1	32.1	12.5
少	75	18.7	17.3	29.3	16.0

会長の手当てと持ち出しの割合では(表2-2-20)、「持ち出しの方が多」は31.8%であり、弘前市の会長の持ち出しは例えばいわき市の会長と同様に手当てよりも多い。リソース別については差がみられなかった(多:33.8%、中:32.1%、少:29.3%)。

会長の選出方法について確認する(表2-2-21)。弘前市町会では「総会の話し合いで推された」(42.1%)が一番多く、「前会長からの指名」(33.6%)や「役員会での互選」(31.8%)がそれに続く。リソース別で特徴なのは、「少」で「持ち回り」(9.3%)だけであり、弘前市の町会では「前会長からの指名」(多:26.2%、中:32.1%、少:40.0%)のように、禅譲された会長ほどリーダーシップは弱い傾向にあることがうかがえる。

表2-2-21 会長選出方法

	調査数	どのようにして会長に選ばれたか							
		総会の話し合いで推された	前会長からの指名	役員会での互選	選考委員会等による推薦	総会で立候補	持ち回り(当番制)	抽選(くじ引き)	その他
合計	214	42.1	33.6	31.8	14.5	6.5	4.2	-	1.9
多	65	44.6	26.2	29.2	10.8	7.7	-	-	-
中	56	39.3	32.1	35.7	19.6	7.1	1.8	-	1.5
少	75	44.0	40.0	30.7	13.3	4.0	9.3	-	1.3

表2-2-22 会長任期

	調査数	会長の1任期は何年か						
		半年	一年	二年	三年	三年より長い	決まっていない	わからない
合計	214	0.9	8.9	82.7	1.4	0.5	5.6	-
多	65	-	12.3	75.4	1.5	1.5	9.2	-
中	56	1.8	3.6	94.6	-	-	-	-
少	75	1.3	8.0	82.7	1.3	-	6.7	-

町会会長の1任期(表2-2-22)は「二年」の82.7%が一番多く、これは青森市や山形市が8割前後と同様な結果である。また、「1年」は8.9%である。リソース別

にみると、「中」では「2年」(94.6%)と9割以上である一方で、「多」では75.4%となっている。こうした結果をふまえると、他の市とは異なり、任期の長さで会長のリーダーシップ形成はあまり関係がないように思われる。

表2-2-23 予算案作成方法

調査数	町会の予算案はどのように作成されているか							
	担当役員が素案を示し役員会で審議の上、作成	役員会で協議して一から作成	会長が素案を示し役員会で審議の上、作成	担当役員がすべて作成	会長がすべて作成	その他	作成していない	
合計	214	50.5	34.1	27.6	15.9	3.3	1.9	1.4
多	65	46.2	24.6	21.5	20.0	4.6	4.6	-
中	56	42.9	41.1	33.9	17.9	3.6	-	1.8
少	75	60.0	34.7	30.7	12.0	1.3	1.3	2.7

予算案作成方法について確認すると(表2-2-23)、一番多いのは「担当役員が素案を示し、役員会で審議、作成」(50.5%)であり、他の市と同様の傾向である。

また、会長リソースが少ない町会で「担当役員が素案を示し、役員会で審議、作成」(60.0%)が多く、弘前市では会長のリーダーシップが弱い場合、予算作成には一定の距離を置いていることがうかがえる。

また、会長リソースが少

表2-2-24 会長が抱く町会の未来イメージ

調査数	町会の未来イメージについて					
	地域社会の役割が高まり、町会のごとが増える	地域社会の役割が高まるが、町会のごとは変わらない	地域社会の役割は変わらず、町会のごとも変わらない	地域社会の役割は変わらないが、町会のごとは増える	その他	わからない
合計	214	45.8	13.6	8.4	17.8	10.7
多	65	41.5	15.4	13.8	13.8	10.8
中	56	42.9	10.7	8.9	23.2	10.7
少	75	52.0	14.7	4.0	17.3	9.3

会長が抱く町会の未来イメージをみると(表2-2-24)、会長全体の5割近くが「地域社会の役割が高まり、町会の仕事が増える」と回答しており、青森市、秋田市、盛岡市やいわき市と同様に、町会の重要性が高まると考える会長が多いようだ。また、会長リソース

「多」で、「地域社会の役割は変わらず、町会の仕事も変わらない」(13.8%)が平均より多いという特徴もみられた。

表2-2-25 会長が考える行政との今後の関係

調査数	これからの市行政との関係について					
	これまで関係は強く、これからは強い	これまで関係は深かったが、これからは弱くなる	これまで、これからは関係は弱い	これまで関係は弱かったが、これからは強くなる	わからない	
合計	214	50.9	5.6	7.5	21.0	11.7
多	65	50.8	6.2	9.2	15.4	15.4
中	56	53.6	8.9	1.8	21.4	12.5
少	75	49.3	2.7	9.3	26.7	8.0

会長は町会と行政との関係をどう考えているのだろうか(表2-2-25)。行政との関係は「これまでも関係は強く、これからは強い」と回答する人は50.9%であり、ほぼ半数の会長は行政との関係強化を想定している。また、リソースによる差異はみられなかった。

最後に会長が考える町会組織の未来像について確認する(表2-2-26)。一番多かったのは、「これまで通り、地縁的組織の代表的組織として続く」(57.9%)であり、他の市とはやや少ない、約6割の回答率であった。また、リソース別には差がないことも確認できた。

表2-2-26 会長による町会組織未来像

調査数	今後の町会はどうなる組織になるか				
	これまで通り、地縁的組織の代表的組織として続く	これまで関係は深かったが、これからは弱くなる	その他の組織	わからない	
合計	214	57.9	27.1	0.9	9.8
多	65	60.0	30.8	1.5	4.6
中	56	55.4	30.4	-	12.5
少	75	60.0	25.3	1.3	12.0

次に会長の基本属性について確認する（表 2-2-27）。性別について、他の市と同様に会長の9割以上の男性であり、年代も60代以上が87.4%と、他の市よりも会長の高齢化が進んでいるようだ。また、リソースが多いほど会長の年齢が高いのは他の市と同様な傾向である。

表 2-2-27 会長の性別・年齢

	調査数	会長の性別		会長の年齢							
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	
合計	214	96.7	1.9	-	0.5	1.9	8.4	35.0	44.9	7.5	
多	65	∴ 100.0	-	-	-	-	1.5	-	33.8	↑ 55.4	9.2
中	56	∴ 100.0	-	-	-	-	∴ 3.6	37.5	48.2	10.7	
少	75	97.3	2.7	-	1.3	∴ 4.0	▲ 18.7	36.0	∴ 36.0	4.0	

表2-2-28 会長宅の家族構成

	調査数	会長の家家族構成						
		非高齢者のみの核家族世帯	高齢者のみの核家族世帯	非高齢者と高齢者からなる親族世帯	非高齢者の単身世帯	高齢者の単身世帯	二世帯以上に居住	その他
合計	214	14.5	25.7	36.0	-	2.8	16.4	0.5
多	65	10.8	26.2	38.5	-	1.5	18.5	-
中	56	10.7	30.4	33.9	-	3.6	19.6	-
少	75	18.7	28.0	34.7	-	4.0	13.3	1.3

会長宅の家族構成についてみると（表2-2-28）、「非高齢者と高齢者からなる親族世帯」（36.0%）がとボリュームゾーンとなっており、他の市（いわき市を除く）

とは異なる傾向となっている。また、弘前市町会では家族構成と会長リソースとの間には関連性は弱そうである。

表2-2-29 各市長が兼務する役職数

	調査数	現在の役職個数	過去の役職個数
合計	214	3.29	2.35
多	65	∴ 3.65	▲ 2.98
中	56	↑ 3.75	2.38
少	75	↓ 2.87	▽ 1.87

会長が兼務する役職数を確認することにする（表2-2-29）。弘前市は全体平均で兼職は約3つであり、青森市や盛岡市の4つと比べると1つ少ない。リソース別でみると、多：3.65、中：3.75、少：2.87と、むしろ「中」の会長ほど現在の役職個数が多い。しかし、過去の役職個数（多：2.98、中：2.38、少：1.87）をみると、過去においては他の市でもみられる過去の会長への「トップ・ヘヴィ」がみられているため、現在はやや負担を軽減させている段階にあるのだろうか。

最後に会長が個人的に関わっている地域活動を確認する（表 2-2-30）。一番多いのは「地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している」（41.6%）であり、次いで「特に何もしていない」（34.1%）である。リソース別について、他市ではリソースの少ない会長は「何もしていない」が多いのだが、弘前市ではさほど大きな差になっていない（多：27.7%、中：37.5%、少：37.3%）。また、会長リソースが多いほど「ポケット・マネーでの支援」（多：20.0%、中：10.7%、少：6.7%）が多く、「中」では「自ら発起人となりイベントを開催」（12.5%）というように、リソースごとに資金面を支援する／自ら支援するといった類型が推察される。

表 2-2-30 会長が個人的に関わっている地域活動

	調査数	会長としての正規の仕事以外に個人的に地域活動に関わっているか						
		地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している	地域の任意団体が活動しやすいように調整や働きかけをしている	ポケット・マネーで地域の団体や活動を支援している	自らが発起人となって地域イベントを開催している	自らが発起人となって地域組織・NPOなどを立ち上げている	その他	とくに何もしていない
合計	214	41.6	28.5	11.7	7.0	2.8	7.9	34.1
多	65	44.6	33.8	△ 20.0	4.6	3.1	9.2	27.7
中	56	42.9	35.7	10.7	∴ 12.5	1.8	3.6	37.5
少	75	41.3	∴ 20.0	∴ 6.7	5.3	4.0	∴ 12.0	37.3

2.3 弘前市町会のリソース分布

表 2-3-1 地区別でみた各リソース偏差値

	活動	会長	ンセグ メ		活動	会長	ンセグ メ
朝陽	41.0	60.1	2	豊田	35.6	38.3	3
一大	38.8	54.8	2	堀越	74.9	50.9	1
二大	49.6	50.9	2	千年	62.6	47.7	4
三大	60.4	50.9	1	藤代	49.6	49.5	3
和徳学区	53.3	61.4	1	東目屋	42.5	50.9	2
時敏	44.7	46.3	3	船沢	42.5	43.3	3
北	49.6	32.5	3	高杉	53.3	58.4	1
下町	44.7	57.1	2	裾野	58.7	73.8	1
城西	57.6	55.5	1	新和	46.2	58.4	2
桔梗野	58.7	45.1	4	石川	53.3	39.4	4
文京	59.1	38.3	4	岩木	51.8	61.2	1
東	58.0	40.8	4	相馬	31.7	53.9	2
和徳	44.7	56.6	2	その他	31.7	27.9	3
清水	55.4	46.3	4				

ここでは前節で確認した町会に関する「活動リソース」と「会長リソース」をかけあわせた「町会リソース」を作成し、その分布をみていくことにする。ここで、2.2 で議論した会長リソースと活動リソースの「多」、「中」、「少」のそれぞれに「3」、「2」、「1」と得点化した上で、各地区別に両リソースを集計し偏差値化したものが表 2-3-1 になる。

そして、この偏差値 50.0 を境界にして「多」「少」として、その組み合わせをセグメント 1~4 としている。そうした操作によって得られた各リソースの構成比をみると、(活動リソース、会長リソース) が (多、多) は 22.4%、(少、多) は 24.8%、(少、少) は 29.4%、(多、少) は 22.4%、不明は 0.9% である。

第一象限 (多、多) では裾野、和徳学区、岩木、高杉、城西、三大、堀越地区が該当し、第二象限 (少、多) は朝陽、相馬、一大、和徳、下町、新和、東目屋、二大地区があり、第三象限 (少、少) に豊田、北、船沢、時敏、藤代地区、第四象限 (多、少) においては文京、東、石川、桔梗野、千年、清水地区となっている。

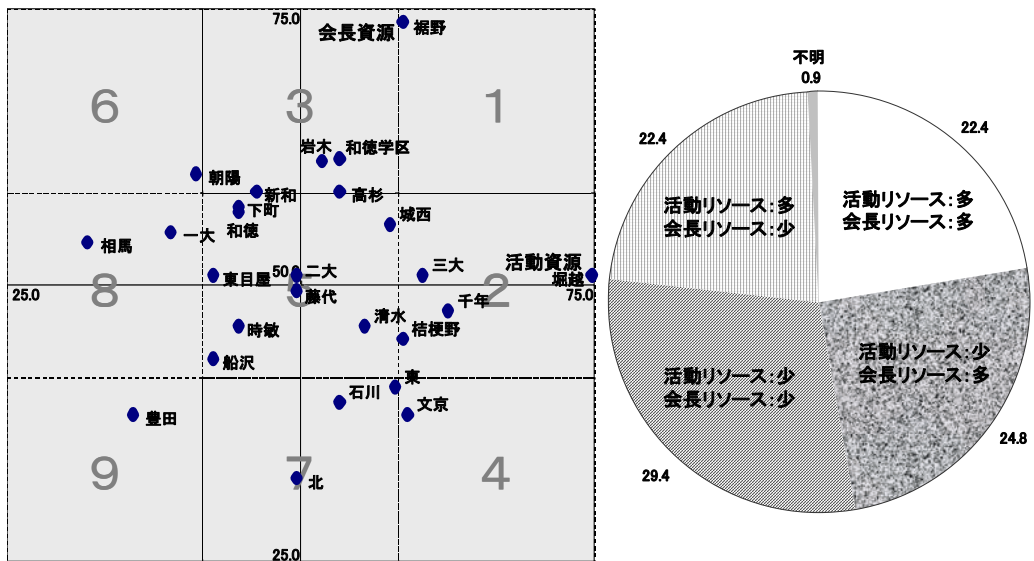


図 2-3-1 弘前市町会の地区別リソース分布とその比率(N=214)

各セグメントが抱える課題をみる前に、それらの基本属性を確認する（表2-3-2）。加入世帯数について、(多、多)は176戸、(少、多)は141戸、(少、少)は141戸、(多、少)は272戸となっている。また、世帯加入率については(多、少)が87.4%と最も少なく、全体との有意な差は存在するものの、セグメントの差は5pt程度と小さい。

表2-3-2 セグメント毎の加入世帯数・加入率

	加入世帯数		世帯加入率	
	調査数	戸	調査数	平均
合計	208	178.31	210	90.45
活動:多、会長:多	47	176.13	47	92.34
活動:少、会長:多	52	140.67	53	89.43
活動:少、会長:少	61	141.98	61	92.13
活動:多、会長:少	47	▲272.43	48	∴87.40

	調査数	町会への世帯加入率						わからない
		全戸加入	90%以上加入	70%以上～90%未満加入	50%以上～70%未満加入	30%以上～50%未満加入	30%未満	
合計	214	34.1	37.4	18.2	6.5	1.4	0.5	1.9
活動:多、会長:多	48	35.4	41.7	14.6	6.3	-	-	2.1
活動:少、会長:多	53	41.5	∴28.3	20.8	5.7	1.9	∴1.9	-
活動:少、会長:少	63	38.1	38.1	14.3	4.8	1.6	-	3.2
活動:多、会長:少	48	▽18.8	43.8	25.0	10.4	2.1	-	-

町会の発足時期であるが（表2-3-3）、セグメントで特徴があるのは、(少、多)で「40年代以前」（64.2%）、(少、少)は「80年代」（12.7%）、(多、少)は「70年代」（20.8%）である。これらから、会長リソースが多い町会ほど、古い町会が多い傾向にある。

表2-3-3 セグメント毎の町会発足時期

	調査数	町会発足時期							わからない
		1940年代以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	
合計	214	43.5	11.7	9.3	7.5	5.6	6.1	2.8	13.6
活動:多、会長:多	48	47.9	14.6	12.5	6.3	-	4.2	-	14.6
活動:少、会長:多	53	▲64.2	13.2	5.7	∴1.9	1.9	1.9	3.8	7.5
活動:少、会長:少	63	42.9	∴6.3	7.9	∴3.2	△12.7	9.5	4.8	12.7
活動:多、会長:少	48	▼18.8	14.6	12.5	▲20.8	6.3	8.3	2.1	16.7

表2-3-4 セグメント毎の町会予算規模

	収入(総額)		支出(総額)	
	調査数	千円	調査数	千円
合計	166	1857.65	163	1802.98
活動:多、会長:多	37	1996.84	36	1919.83
活動:少、会長:多	44	1707.41	43	1608.77
活動:少、会長:少	49	▽1437.08	49	▽1408.71
活動:多、会長:少	35	△2443.29	34	▲2445.24

町会の予算規模をみる（表2-3-4）。収入では(多、少)町会の予算規模が一番大きいことがわかる(多×多:200万円、少×多:171万円、少×少:144万円、多×少:244万円)。支出も同様の傾向で(多、少)が大きい(多×多:192万円、少×多:161万円、少×少:141万円、多×少:245万円)。

2.4 セグメントでみた弘前市町会の課題

次に弘前市町会運営上の課題について、4 セグメントの視点で確認する。セグメントに特徴的な項目をみると（表2-4-1）、（少、多）では「どんな情報を伝えればよいかわからない」（1.9%）、（少、少）は「日中、留守の世帯が多い」（23.8%）、「他の町会との交流が少ない」（20.6%）、「行政以外の団体との関係」（15.9%）、「単身世帯数の多さによる傷害」「伝えるべき情報が伝わっていない」（6.3%）、「政治や選挙の相談・依頼」（1.6%）、（多、少）は「町会行事への住民参加の少なさ」（72.9%）、「会員の高齢化」（66.7%）、「町会のルールを守らない住民の存在」「予算の不足」（33.3%）、「集会施設がない」（31.3%）、「未加入世帯の増加」（27.1%）等である。このようにみると、弘前市町会における運営上の問題は会長リソースが少ないところで顕在化しているが、特に活動リソースが多い町会ほどその問題が多いようである。

表2-4-1 セグメント別でみた町会運営上の困りごと

	調査数	町会の運営上困っていること							
		町会の役員 のなり 手不足	町会行事 への住民 の参加の 少なさ	会員の 高 齢 化	集会施設 がない/ 狭い/ 不便	町会の ルールを 守らない 住民の存 在	加入世帯 の家族構 成が把握 できない	予算の不 足	日中、留 守の世帯 が多い
合計	214	73.4	63.6	56.1	21.5	21.0	20.6	19.6	17.3
活動：多、会長：多	48	∴ 64.6	64.6	58.3	↓ 10.4	20.8	16.7	∴ 10.4	14.6
活動：少、会長：多	53	69.8	64.2	58.5	18.9	15.1	18.9	18.9	11.3
活動：少、会長：少	63	79.4	∴ 55.6	∴ 46.0	25.4	17.5	25.4	17.5	∴ 23.8
活動：多、会長：少	48	79.2	∴ 72.9	∴ 66.7	↑ 31.3	△ 33.3	20.8	△ 33.3	18.8

	調査数	町会の運営上困っていること							
		未加入世帯 の増加	行政との 関係（依 頼の多さ 等）	他の町会 との交流 が少ない	行政以外 の団体と の関係 （負担金 等）	世代間の ズレ	まとめ役 がない、 力不足	運営のた めの経験 や智恵が 足りない	構成世帯 数の少な さによる 障害
合計	214	16.8	13.1	11.2	10.7	8.9	7.9	6.1	5.6
活動：多、会長：多	48	18.8	10.4	8.3	6.3	10.4	8.3	4.2	4.2
活動：少、会長：多	53	13.2	11.3	↓ 3.8	5.7	5.7	5.7	1.9	5.7
活動：少、会長：少	63	11.1	17.5	△ 20.6	∴ 15.9	6.3	7.9	9.5	6.3
活動：多、会長：少	48	↑ 27.1	10.4	8.3	12.5	∴ 14.6	10.4	8.3	6.3

	調査数	町会の運営上困っていること							
		住民間の 摩擦	単身世帯 数の多さ による障 害	伝えるべ き情報が 伝わって いない	役員内の あつれき	政治や選 挙の相 談・依頼 事	どんな情 報を伝え ればよ いかわ からない	その他	困ってい ることは ない
合計	214	3.7	3.3	3.3	1.4	0.5	0.5	5.6	3.3
活動：多、会長：多	48	4.2	2.1	2.1	-	-	-	6.3	6.3
活動：少、会長：多	53	5.7	1.9	1.9	1.9	-	∴ 1.9	-	1.9
活動：少、会長：少	63	1.6	∴ 6.3	∴ 6.3	3.2	∴ 1.6	-	6.3	3.2
活動：多、会長：少	48	4.2	2.1	2.1	-	-	-	∴ 10.4	-

次に町会における生活上の困りごとについて確認する（表2-4-2）と、（少、少）で「集会所等の文化交流施設の不足・老朽化」（34.9%）の1項目、（多、少）になると「ゴミ処理の問題」（83.3%）、「ひとり暮らしの高齢者への対応」（68.8%）、「住民間のトラブル」（37.5%）、「治安・風紀等の悪化」（31.3%）と多岐にわたっており、先の運営上の問題と同様に、活発

であるものの会長のリーダーシップの弱い町会で、生活上の問題が顕在していることが推察できる。

表2-4-2 セグメント別でみた町会における生活上の困りごと

	調査数	町会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか(現在あるか)						
		ゴミ処理の問題	ひとり暮らしの高齢者への対応	移動や交通の問題	住民間のトラブル	集会所・図書館等文化交流施設の不足・老朽化	治安・少年非行・風紀の悪化	商店・スーパー等の買い物施設の不足
合計	214	69.6	57.5	34.6	27.1	25.2	22.9	21.5
活動:多、会長:多	48	72.9	52.1	∴ 25.0	∴ 18.8	∴ 16.7	∴ 14.6	∴ 12.5
活動:少、会長:多	53	62.3	50.9	37.7	20.8	24.5	22.6	26.4
活動:少、会長:少	63	63.5	58.7	38.1	31.7	↑ 34.9	23.8	25.4
活動:多、会長:少	48	△ 83.3	∴ 68.8	35.4	∴ 37.5	22.9	∴ 31.3	18.8

	調査数	町会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか(現在あるか)						
		都市型災害に対する基盤整備の不足	保育園・学校等育児・教育施設の不足	住宅の建て込み等の住宅問題	病院や老人福祉センター等医療・福祉施設の不足	行政とのトラブル	公園・運動場・体育施設等の不足	幼児虐待などの子育て上の問題
合計	214	18.2	16.8	16.4	16.4	16.4	15.9	15.4
活動:多、会長:多	48	↓ 8.3	10.4	12.5	10.4	10.4	∴ 8.3	∴ 8.3
活動:少、会長:多	53	17.0	17.0	18.9	17.0	15.1	18.9	15.1
活動:少、会長:少	63	23.8	22.2	17.5	19.0	20.6	19.0	19.0
活動:多、会長:少	48	22.9	16.7	16.7	18.8	18.8	16.7	18.8

	調査数	町会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか(現在あるか)						
		土地問題(土地利用規制や共有地)	開発による住環境や自然環境の悪化	ねぶた団体とのトラブル	商店や工場を経営していく上での障害	民間企業とのトラブル	その他	困っていることはない
合計	214	15.4	15.0	14.5	14.0	13.6	4.2	10.7
活動:多、会長:多	48	▽ 4.2	↓ 6.3	8.3	∴ 6.3	∴ 6.3	2.1	10.4
活動:少、会長:多	53	20.8	17.0	15.1	15.1	15.1	3.8	15.1
活動:少、会長:少	63	20.6	17.5	17.5	17.5	17.5	4.8	12.7
活動:多、会長:少	48	14.6	18.8	16.7	16.7	14.6	6.3	∴ 4.2

表2-4-3 セグメント別でみた負担に感じるもの

	調査数	負担に感じるもの			
		町会単位の仕事・付き合い	町会連合会単位の仕事・付き合い	行政からの依頼仕事	その他
合計	214	34.1	30.8	30.4	5.1
活動:多、会長:多	48	↑ 45.8	37.5	33.3	6.3
活動:少、会長:多	53	28.3	28.3	28.3	1.9
活動:少、会長:少	63	31.7	31.7	33.3	4.8
活動:多、会長:少	48	31.3	25.0	25.0	8.3

最後にセグメント毎の会長が負担に感じるものについて確認する(表2-4-3)。(多、多)で「町会単位の仕事・付き合い」(45.8%)が多く、これは先の「トップ・ヘヴィ」にあるように、活動量の多さがリソースの多い町会長に負担を感じさせていることが、弘前市でも同様な状況にあることがわかる。

2.5 地区別にみた諸問題の解決に向けた町会の役割

本節では、弘前市町会が抱える諸問題を「地区別」という地理的特性の次元でとらえ、問題解決の方途を探る。

(1) リソースの地理的特性

図2-3-1と図2-5-1とあわせてみていくと、まずは両極の第一象限(多、多)と第三象限(少、少)について、(多、多)に分類される地区は和徳学区、三大、城西、堀越、裾野、岩木である。一方で(少、少)は豊田、時敏、北、藤代、船沢と、市北部に比較的多い。その他に(少、多)は朝陽、一大、二大、下町、和徳といった中心部と東目屋、新和、相馬といった郊外部にあり、(多、少)は東、文京、桔梗野の中心部と清水、千年、石川という郊外部に分布している。

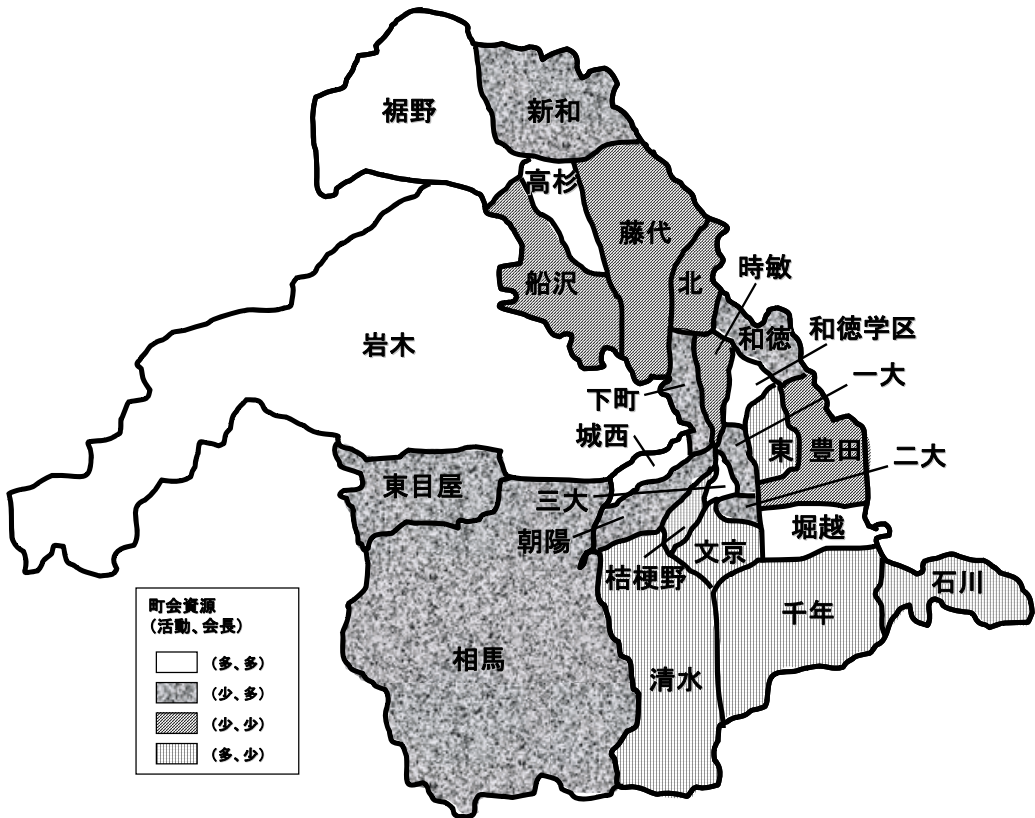


図2-5-1 4セグメントの布置状況(弘前市提供資料等より筆者作成。地区境界が正確でない部分もある)

地理的な布置状況から、市中心～南部に位置する桔梗野、文京、清水、千年、石川地区においては活動リソースが多い一方で会長リソースは少ない。市中心～北部における一大、二大、下町、和徳、時敏、北、藤代、船沢地区では活動リソースが少ない。また、合併した相馬、岩木はいずれも会長リソースが多い地区である。

以上をまとめると、相馬、東目屋、岩木、裾野といった市西部の郊外は会長のリーダーシップがあると推測されるエリアであり、市南東部の堀越、文京、桔梗野、清水、千年、石川地区では活動が活発な町会が多く、これらは会長が活動のどちらかのリソースが平均以上である。一方、市北東部においては活動リソースが少ない地区が多く、ここでは町会活動が衰退傾向にある可能性が高い。

この結果は、活動リソースの少ない地区が市中心部からやや離れた／離れたところに位置しているという福島市、盛岡市、いわき市とはやや異なっている。ただし、活動と地理的特性に何らかの関係をもつことがうかがえよう。

(2) 地区別の問題の解決に向けて

これまで町会を活動と会長のリソースで、また2つの軸によってつくられるセグメントにより、町会自身の活動や問題点を類型化した。問題解決の方向性を見出すにあたって、まずはセグメント毎の課題と解決の方向性をまとめる。

弘前市町会の課題と問題解決の方向性をまとめると、次の図 2-5-2 のように示すことができる。町会全体の困りごとは「役員のなり手がいない」、「行事に対する住民参加が少ない」、「会員の高齢化」であり、生活上の問題点は「ゴミ処理」、「ひとり暮らしの高齢者への対応」「移動や交通」である。これらが弘前市にある町会が抱える共通の課題である。これらに対しては、いわゆる「トップ・ヘヴィ」となって集中する会長や役員への負担軽減を行うことや、様々な世代が参加可能な行事・イベント等の活動を増やし、若い世代の認知と関心を高める必要があるだろう。また、これら活動の場所としての施設の充実が必要といえる。

次に活動リソース×会長リソースによるセグメントからみてみよう。

(多、多)の町会では、町会運営、そして生活上でも特徴的な問題はない。このセグメントは活動の数が多いという意味で活発な町会であり、かつリーダーたる会長も町内にはそれなりの力を発揮しているためであると推察できる。

次にどちらかのリソースが平均以上である(多、少)と(少、多)のセグメントについて確認する。(多、少)で特徴的な町会運営上の問題は「町会ルールを守らない住民の存在」、「予算の不足」、「集会施設がない／不足」、「未加入世帯の増加」、「世代間のズレ」であり、生活上の問題は「住民間のトラブル」や「治安・風紀等の悪化」である。これは町会内でのコミュニケーションがあまりないために、会長・役員・会員をつなぐネットワークが形成されずに諸問題が発生しているのだろう。(少、多)では「どんな情報を伝えればよいかかわからない」であるが、コミュニケーションやネットワーク形成の観点では先の(多、少)とさほど問題の基層はかわらない。ただこのセグメントでは形式的なことがクリアできていない可能性が高いため、広報配布の徹底や声かけといった基本的な活動を充実させることが重要である。

最後に(少、少)である。町会運営上の問題では「日中、留守世帯が多い」、「他の町会との交流が少ない」、「行政以外の団体の関係」、「単身世帯数の多さによる障害」があげられている。一方の生活上の問題では「集会所等の文化交流施設の不足・老朽化」である。二つの

方向をあげるならば、このセグメントの町会は最低限の活動がなされていない可能性は強く、まずは連絡・伝達方法の工夫が必要と考えられる。それは従来のような回覧板のような手段ではなく、例えば、携帯電話へのメール配信といったインターネットを活用するのも一つであろう。また、町会の古さや加入世帯数による規模の小ささについては、単独ではなく他の町会との交流や連携も視野に入れる必要があるかもしれない。



図 2-5-2 弘前市町会の課題と問題解決の方向性(下線は生活上の問題)

以上のように、弘前市町会が抱える課題を4つのセグメントの視点から捉え、その問題解決の方向性について検討した。

本章での分析の中心に活動リソースと会長リソースといった概念があるが、後者については会長の在位年数と世帯の地付きで定義しているため、リーダーシップとの関わりについて厳密には不分明といわざるを得ない。そこで本調査(『2011年度 弘前市町会調査』)において、会長のリーダーシップや町会のマネジメントに関する自己評価の項目を加えることにした。本章でもその結果をセグメント化のプロセスに組み込むべきだろうが、今回は最初の試みであることと他市との比較を行うことから、あえて従来の枠組みでの検討を進めてきた。このリーダーシップとマネジメントについての分析は後述するので、そちらを参照していただきたい。

参考文献

弘前市 HP 『市の統計』 <http://www.city.iwaki.fukushima.jp/tokei/004869.html>

松本行真、吉原直樹、2009、「町会における諸問題の解決法に関する一考察」『ヘスティアとクリオ』No.8 : 19-51

松本行真、2010、「福島市町会における問題の所在」『地方都市における町会の変容とその諸相—2009年福島市町会・町会調査結果報告書—』東北都市社会学研究会編 : 21-48

松本行真、2011a、「盛岡市町内会における問題の所在」『地方都市における町内会の現状とゆくえ—2010年度盛岡市町内会・町会調査結果報告書—』東北都市社会学研究会編

松本行真、2011b、「地域リーダーの防災観」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房

松本行真、2011c、「防災コミュニティの人的資源と活動資源」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房